

日本語教育能力検定試験の 改定について

財団法人日本国際教育支援協会

背景①

- 昭和60年：日本語教員養成のための標準的な教育内容
文部科学省 日本語教育施策の推進に関する調査研究報告「日本語教員の養成等について」
 - 急増する留学生への対応
 - 日本語教育の専門性の確立 「言語知識中心」

いわゆる420時間として

- ・ 日本語の構造
- ・ 日本事情
- ・ 日本語教授法

背景②

□ 平成12年：日本語教員養成において必要とされる教育内容

文化庁 日本語教員の養成に関する調査研究報告「日本語教育のための教員養成について」

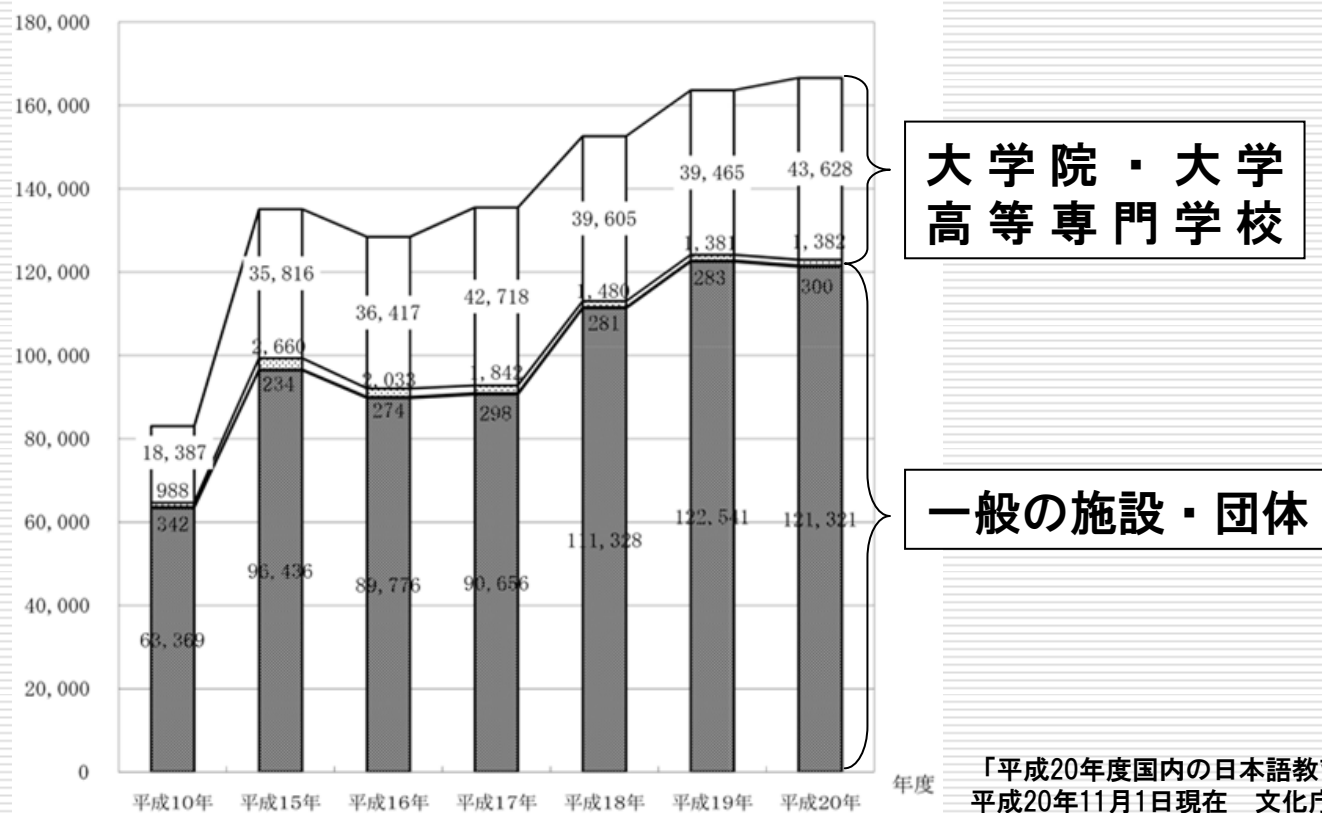
- 多様な学習需要への対応
- 多様な養成コース設定の実現

基礎から応用にいたる選択的な教育内容として

- ・ 社会・文化・地域
- ・ 言語と社会
- ・ 言語と心理
- ・ 言語と教育
- ・ 言語一般

背景③

□ 高等教育機関以外の学習者の増加（国内）



「平成20年度国内の日本語教育の概要」
平成20年11月1日現在 文化庁文化語課より

背景④

□対象別日本語教育の検討・実践（国内）



新たな合格者像



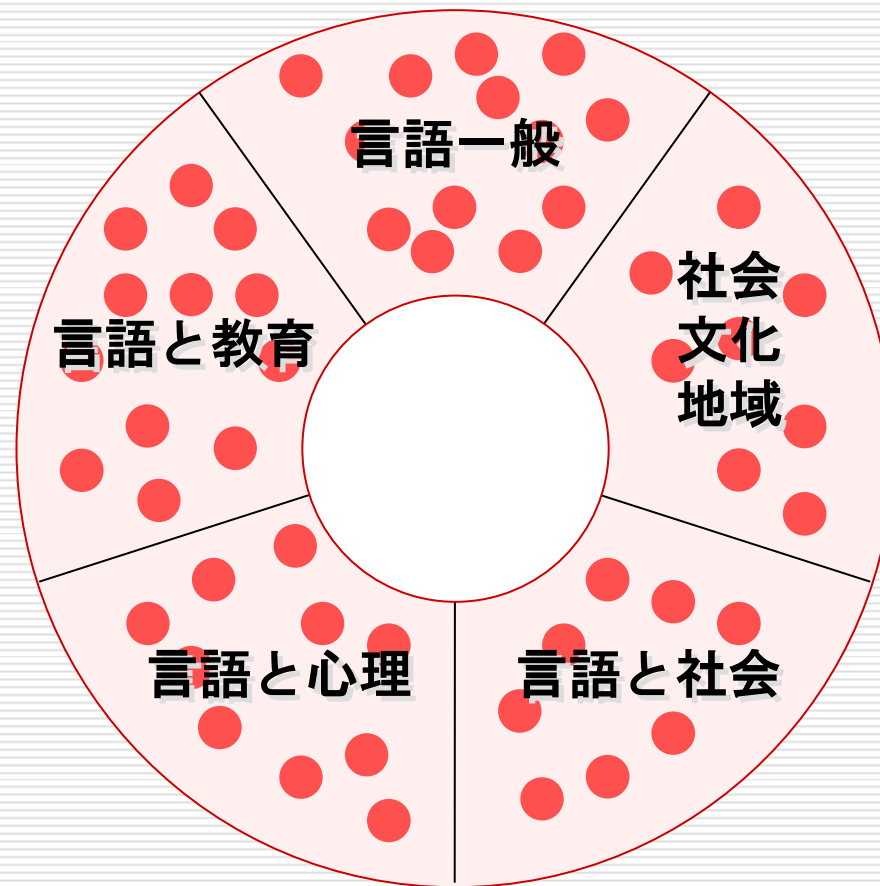
日本語教育の スタートラインに立つための 知識・能力を備えた人材

多様な現場に対応するために、その核となる

- 基礎的な知識を体系的に有する。
- 基礎的な知識を実践と関連づける能力を有する。

□ 出題範囲における基礎項目

基礎項目の抽出



基礎項目【社会・文化・地域】

主要項目（基礎項目）	
1. 世界と日本	(1)諸外国・地域と日本
	(2)日本の社会と文化
2. 異文化接触	(1)異文化適応・調整
	(2)人口の移動(移民・難民政策を含む。)
	(3)児童生徒の文化間移動
3. 日本語教育の歴史と現状	(1)日本語教育史
	(2)日本語教育と国語教育
	(3)言語政策
	(4)日本語の教育哲学
	(5)日本語及び日本語教育に関する試験
	(6)日本語教育事情：世界の各地域，日本の各地域
4. 日本語教員の資質・能力	

基礎項目【言語と社会】

主要項目（基礎項目）	
1. 言語と社会の関係	(1)社会文化能力
	(2)言語接触・言語管理
	(3)言語政策
	(4)各国の教育制度・教育事情
	(5)社会言語学・言語社会学
2. 言語使用と社会	(1)言語変種
	(2)待遇・敬意表現
	(3)言語・非言語行動
	(4)コミュニケーション学
3. 異文化コミュニケーションと社会	(1)言語・文化相対主義
	(2)二言語併用主義(バイリンガリズム(政策))
	(3)多文化・多言語主義
	(4)アイデンティティ(自己確認, 帰属意識)

基礎項目【言語と心理】

主要項目（基礎項目）	
1. 言語理解の過程	(1)予測・推測能力
	(2)談話理解
	(3)記憶・視点
	(4)心理言語学・認知言語学
2. 言語習得・発達	(1)習得過程(第一言語・第二言語)
	(2)中間言語
	(3)二言語併用主義(バイリンガリズム)
	(4)ストラテジー(学習方略)
	(5)学習者タイプ
3. 異文化理解と心理	(1)社会的技能・技術(スキル)
	(2)異文化受容・適応
	(3)日本語教育・学習の情意的側面
	(4)日本語教育と障害者教育

基礎項目【言語と教育】

主要項目（基礎項目）

1. 言語教育法・実技（実習）

(1)実践的知識・能力

(2)コースデザイン(教育課程編成), カリキュラム編成

(3)教授法

(4)評価法

(5)教育実技(実習)

(6)自己点検・授業分析能力

(7)誤用分析

(8)教材分析・開発

(9)教室・言語環境の設定

(10)目的・対象別日本語教育法

基礎項目【言語と教育】

主要項目（基礎項目）	
2. 異文化間教育・コミュニケーション教育	(1)異文化間教育・多文化教育
	(2)国際・比較教育
	(3)国際理解教育
	(4)コミュニケーション教育
	(5)異文化受容訓練
	(6)言語間対照
	(7)学習者の権利
3. 言語教育と情報	(1)データ処理
	(2)メディア／情報技術活用能力(リテラシー)
	(3)学習支援・促進者(ファシリテータ)の養成
	(4)教材開発・選択
	(5)知的所有権問題
	(6)教育工学

基礎項目【言語一般】

主要項目（基礎項目）	
1. 言語の構造一般	(1)言語の種類
	(2)世界の諸言語
	(3)一般言語学・日本語学・対照言語学
	(4)理論言語学・応用言語学
2. 日本語の構造	(1)日本語の構造
	(2)音声・音韻体系
	(3)形態・語彙体系
	(4)文法体系
	(5)意味体系
	(6)語用論的規範
	(7)文字と表記
	(8)日本語史
3. コミュニケーション能力	(1)受容・理解能力
	(2)言語運用能力
	(3)社会文化能力
	(4)対人関係能力
	(5)異文化調整能力

□求められる知識・能力

社会・文化・地域

日本や日本の地域社会が関係する国際社会の実情や，国際化に対する日本の国や地方自治体の政策，地域社会の人びとの意識等を考えるために，次のような視点と基礎的な知識を有し，それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。

- ・ 国際関係論・文化論・比較文化論的な視点とそれらに関する基礎的な知識
- ・ 政治的・経済的・社会的・地政学的な視点とそれらに関する基礎的知識
- ・ 宗教的・民族的・歴史的な視点とそれらに関する基礎的知識

言語と社会

言語教育・言語習得および言語使用と社会との関係を考えるために、次のような視点と基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。

- ・言語教育・言語習得について、広く国際社会の動向からみた国や地域間の関係から考える視点とそれらに関する基礎的知識
- ・言語教育・言語習得について、それぞれの社会の政治的・経済的・文化的構造等との関係から考える視点とそれらに関する基礎的知識
- ・個々人の言語使用を具体的な社会文化状況の中で考える視点とそれらに関する基礎的知識

言語と心理

言語の学習や教育の場面で起こる現象や問題の理解・解決のために、次のような視点と基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。

- ・ 学習の過程やスタイルあるいは個人，集団，社会等，多様な視点から捉えた言語の習得と発達に関する基礎的知識
- ・ 言語教育に必要な学習理論，言語理解，認知過程に関する心理学の基礎的知識
- ・ 異文化理解，異文化接触，異文化コミュニケーションに関する基礎的知識

言語と教育

学習活動を支援するために、次のような視点と基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。

- ・ 個々の学習者の特質に対するミクロな視点と、個々の学習を社会の中に位置付けるマクロな視点
- ・ 学習活動を客観的に分析し、全体および問題の所在を把握するための基礎的知識
- ・ 学習者のかかえる問題を解決するための教授・評価等に関する基礎的知識

言語一般

教育・学習の対象となる日本語および言語一般について次のような知識・能力を有し，それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。

- ・ 現代日本語の音声・音韻，語彙，文法，意味，運用等に関する基礎的知識とそれらを客観的に分析する能力
- ・ 一般言語学，対照言語学など言語の構造に関する基礎的知識
- ・ 指導を滞りなく進めるため，話し言葉・書き言葉両面において円滑なコミュニケーションを行うための知識・能力

記述式問題のあり方

日本語教師として円滑なコミュニケーションを行うための能力を測ることを目的とし、題材を教授項目、教材分析等に限らず、言語および社会における事象も範囲に含める。

【問題例】

さまざまなメディアで「ら抜き言葉」や「れ不足言葉」などの「日本語の乱れ」がしばしば話題になり、議論にもなっている。また、日本語学習者も生の日本語に接し、「日本語の乱れ」を見聞きしている状況にある。このいわゆる「日本語の乱れ」について、あなた自身はどう考えるか。また、その考えを授業実践において具体的にどのように反映しようとするか。400字以内で述べなさい。

【採点の観点】

1. 論理性に関する観点
2. 日本語に関する観点